

## 「川口市障害者福祉計画等」策定のための意見交換会 実施結果

## 【実施目的】

アンケート調査では把握できない障害者の声を把握し、現在策定中の計画の基礎資料とすることを目的として実施した。

## 【実施概要】

日時：9月25日（月）午前9時30分～11時30分（身体障害者及び関係者：13名）

午後2時～4時（精神障害者及び関係者：2名）

9月26日（火）午前9時30分～11時30分（難病受給者及び関係者：1名）

午後2時～4時（知的障害者及び関係者：3名）

## 【実施テーマ】

現行の川口市障害者福祉計画における6つの施策について意見交換を行った。

- ①障害者の権利擁護と心のバリアフリーの推進について
- ②地域における障害者の自立支援について
- ③保健・医療体制の充実について
- ④障害者の社会活動の支援について
- ⑤障害児とその家庭への支援について
- ⑥障害者にとって安全・安心のまちづくりについて

## (1) 身体障害者（参加者 13 名）

### ①障害者の権利擁護と心のバリアフリーの推進について

（盲導犬への理解促進）

- ・ 介助一般の施設、食堂、飲食店関係、スーパー等でいまだに盲導犬の入店が拒否される。
- ・ 中央ふれあい館にて昨年頃から盲導犬の入室を拒まれるようになった。犬の毛が落ちていると言われるが、毎日ブラッシングをして洋服を着せて出かけても、どうしても毛は落ちる。帰るときにも掃除して気を遣っているが、障害者差別解消法が施行されてもう 1 年半になるのに、盲導犬に対する合理的配慮が全くなされていない。

（障害者への理解に関する啓発活動の促進）

- ・ 障害者に対する理解について、学校の義務教育から取り組んでほしい。
- ・ 町会や自治会にて、障害者に対する理解を深めるための広報活動を行ってほしい。公民館等を通じて、社会教育を事業としてお願いしたい。

（合理的配慮の促進）

- ・ 差別解消法ができたが、民間企業の場合、合理的配慮は努力義務であり、なかなか進んでいない状況だと思う。やはり行政から指導してもらいたいし、いつまでも努力義務として民間に任せたままでよいのかという印象もある。

### ②地域における障害者の自立支援について

（民生委員と身体障害者相談員の連携強化）

- ・ 民生委員と身体障害者相談員の関係の場をもっとつくっていただきたい。地域の中で、聞こえない人たちの生活状況や高齢者の生活状況を把握しきれないのではないかなと思う。行政に状況を教えてほしいとお願いしたが、プライバシーの問題で簡単に教えることはできないと言われた。民生委員との話し合いを通して地域の中の障害者の状況をもっと把握できればよいと思う。

（日常生活用具給付等事業の耐久年数を短くしてほしい）

- ・ 日常生活用具給付等事業で耐久年数が 6 年のプレクストークを購入したが、6 年の間に 2 度ほど故障し、故障代が大分かかってしまったので、耐久年数を 3～4 年程度にしてもらえるとありがたい。（事務局より耐用年数未満でも認めているケースがあることを報告した）

（ごみの収集など、近隣の人に頻繁には頼みにくい）

- ・ （ふれあい収集に関連して）隣の人にゴミを持っていってもらえるような人間関係を築くことも日常生活では大事だと思うが、なかなか頻繁には頼みにくい部分がある。

### ③保健・医療体制の充実について

（医療機関の障害者に対する理解の促進）

- ・ 行政として、医療機関に対し、障害者の理解を深めてもらうような働きかけはしているか。（事務局より、医療機関に対する啓発活動として位置づけたいと回答）

（障害者が利用者しやすいような、病院の設備や環境の整備）

- ・ 医療センターを利用する聴覚障害者にわかりやすい病院内のパンフレットをつくっていただきたい。昭和大学病院のパンフレットが参考になると思う。
- ・ 個人病院では、聞こえない人が受診したときに、呼び出しがわかるような設備がないので、番号を表示するような設備をつけることを市から指導してもらえるとありがたい。

- ・聴覚障害者が突然医療センターに行くことになった場合、事前に通訳者の派遣依頼ができるとは限らず、筆談をお願いしても通訳者の同伴が必須と言われることがある。以前から市に対して医療センターに通訳者を職員として配置してほしいというお願いをしているが、なかなかかなわない。聴覚障害者が通訳派遣を利用するのは医療関係が多く、中でも医療センターに通う人が多いので、コミュニケーションがスムーズに行える環境をつくっていただきたい。

#### ④障害者の社会活動の支援について

(バスの表示、アナウンス、停止位置等に対する要望)

- ・国際興業バスをよく利用している。行き先のアナウンスが聞こえないので表示を見ているが、最近は韓国語、中国語、英語、日本語と早く切り替わるので、見るのが大変である。川口市は韓国人、中国人がたくさんいて、その人たちのために表示があるのは重々わかっているが、かえって我々には不便な面が起きているという状況もある。
- ・バス停で行き先が見えないためアナウンスを聞いているが、外マイクを流してくれないので聞こえない。福祉会に話したところ改善され、外マイクで大きい声で流してくれる運転手もいたが、また以前の状態に戻ってしまった。
- ・バス停から離れた位置にバスが停まり、ドアにたどり着けず困ったことがある。もう少しバス停の近くに停めてもらいたい。
- ・Suica をタッチする機械の位置がバスによって違うので、おおよそ同じ場所に設置してもらいたい。

(福祉タクシー、福祉ガソリン利用料金の助成について)

- ・福祉タクシーは、視覚障害者の場合は1、2級が対象だが、3級までの拡大を考えてほしい。視覚障害の判定基準は両眼の視力の和だが、実際の視界は両眼の視力の和にはならないため、3級と判定されていても見えない場合がある。
- ・福祉タクシー、福祉ガソリン利用料金の助成に所得制限はないほうがよい。

(移動支援の充実)

- ・障害や等級によらずに移動支援を利用できるような制度があれば、安全に早く目的地に行ける。本当であれば点字ブロックをどうこうするより、人の手による移動支援のようなものを充実してもらったほうがよい。

#### ⑤障害児とその家庭への支援について

特になし (事業内容や支援内容への質問のみ)

#### ⑥障害者にとって安全・安心のまちづくりについて

(ハード面でのバリアフリー整備の要望)

- ・市営住宅の福祉センター側には点字ブロックがついているが、反対側は何もついていない。そのためブロック塀や縁石を伝ってバス停まで行くが、通り過ぎたり、たまに車道に出たりする。バス停まで点字ブロックをつけてもらえると助かる。(他の参加者から、道路建設課長と設置の約束をしたとの報告あり。)
- ・点字ブロック、音響信号、エスコートゾーンをつけてもらいたい場所があり要望書を出しているが、道路の種類(市道、県道等)や管轄等の違いにより、なかなか進まないのでは、協力をお

願いたい。

- ・鳩ヶ谷の公民館にはエレベーターがない。高齢者にとっては階段で上り下りするのは大変なので、早くエレベーターを設置してほしいという要望を出しているが、なかなか実現されない。

(障害者と健常者合同での避難訓練や防災訓練の実施を希望)

- ・いざなったときに一般の方は障害者にどう対応していいのかわからないと思うので、一般の人と障害者が一緒に避難訓練や防災訓練を行ったほうがよいと思う。例えば災害時の避難所で、全盲の方の場所をどこにとったらよいのかということも多分一般の方はわからないと思う。一般の方に障害者を理解してもらおうという意味でも一緒に避難訓練に取り組んでほしい。
- ・障害者を対象に訓練を実施する場合でも、地元の人に一緒に参加してもらって、障害者はどのようなときにどのような困ったことがあり、どう支援すればよいのかということを理解してもらおうような防災計画が必要だと思う。
- ・町会でも訓練等はやっているが、消火器の使い方や人工呼吸等しかやらないので、もう少し突っ込んだところまでやってほしい。障害者も進んでそのような場に出ていくべきだと思うが、行政からも各町会の取り組みに障害者も含めるような計画にしていただけるともっと推進されると思う。

(緊急事態発生のお知らせが障害者にもわかるような設備の設置)

- ・聴覚障害者には災害が発生したときに教えてくれる人が必要である。例えば中央ふれあい館で聞こえない者だけで会議をしているときに緊急事態が起きても教えてもらえる方法がない。他市の場合は、緊急事態の際は電光掲示板やお知らせマップで知らせるといった設備がついている。川口市の場合はそのような設備が設置されている公民館はないようなので、推進していただきたい。

(現状の避難の手順や避難所の配置についての問題提起)

- ・頑丈な建物の中にいれば動かないほうが安全で、重度の人が一次避難所に行かなければならないこと自体がナンセンスではないかと思う。行政としては家庭状況や障害の程度をある程度はわかっているのだし、一次避難所に行って、そこから福祉避難所への移送を判断されてという悠長なことをやっていてよいのか。人数の問題等があるのはわかるが、もうすこし改善、見直しが必要ではないか。重度であっても、安全な建物にいて家族や支援してくれる人が身近にいるなら自宅にいたほうがかえって安全だと思うので、現実と少し乖離していると思う。
- ・1カ所に大勢ではなく、小人数でも拠点を確保してもらえたほうがよい。2キロも、3キロも移動するのは大変だし、きちんと送迎してもらえる保障もない。

(避難所での障害者であることの表明について)

- ・障害の内容によって見た目にはわかる障害とわからない障害がある。そのため、有事の際に、障害者が自分から言わずとも、そこに障害者がいることがわかるよう、マークやバンダナ、ビブス等を市で作成して配布してほしい。健常者が見てもわかるようなものをつくっていただければ、よりよい防災になると思う。
- ・川口市でも20年程前に、障害があるため手を貸してほしい旨を意味する黄色いハンカチが配られたことがある。
- ・バンダナやビブスは障害者全員に配るのが一番安心だが、数が膨大になると思うし、予算を考えると、避難所に事前に用意してもらおうのがよい。ただ、避難所に行く途中で手助けが必要になると思うので、障害者一人に1個ずつ配布し、何かあったときにはそれを装着して避難する

というのが理想である。

- 手帳所持者の人数等を参考に、必要最低限の数で、予算の中で配付してもらえるのが一番よい。
- 障害があることを知られてもよい人と知られたくない人がいるが、それは個人の判断でよいと思う。知ってほしい、手助けしてほしいという人は着ればいいし、恥ずかしいという人は着なければよい。まず配付して、着るか着ないかの判断は個人に任せてよいと思う。
- バンダナとかビブスをつけて一般の方と防災訓練をすることも必要だと思うので、ただ緊急のときだけ使うというわけでもないと思う。

## (2) 知的障害者（参加者3名）

### ①障害者の権利擁護と心のバリアフリーの推進について

（どこまで支援すべきなのか困っている）

- ・ある程度本人自身で物事への対応ができるので、どこまで手を貸すべきなのか、成長とともに親として悩んでいる。また、どのような支援をすべきなのか、周りの人は分からないだろうし、説明するのも難しく、人には頼みづらい。

（外見上は障害者だと分かりづらいので、周りにどのように伝えればいいのか悩ましい）

- ・例えば、お祭り時に興奮した際、座っていられずに立ち上がってしまい、周りの人からけなされる。外見上は障害者だと分からず、知的障害だとも伝えづらいし、偏見的な目でみられる子どもがかわいそうである。
- ・イベント等で、やり方を教えても聞いていない、分からないということを通じて、しだいに障害者だということを周りの人は理解する。
- ・親の友達だということを理解すれば、挨拶程度は行う。

### ②地域における障害者の自立支援について

（相談支援センターの活用が不十分）

- ・いつも利用している「あさひ」に相談しており、相談支援センターに行ったことはない。
- ・解決はしないが、愚痴を言いあつて終わる。
- ・子どもの気持ちがはっきりしないこと、親として元気であることが、市への相談を一步踏み出せない要因である。

（親亡き後の住まいの確保策が必要）

- ・親亡き後の住まいが心配である。世話をする人がいなければ、市営・県営住宅に一人で入れておくことはできない。一人暮らしの練習が必要である。3日ぐらい宿泊できる仕組みがあるといい（あるのかどうかさえ知らない）。
- ・行政のサービスでの体験では不安があるので、現在利用している「あさひ」での体験を希望する。新たな利用施設という考えは持つことができない。
- ・親が勉強不足ということもある。
- ・食事、掃除、洗濯を親が交代で行う。ただし家を空けるのは心配。

（友人・知人がいるGHへの入居が希望）

- ・川口市内に光福のようなものがたくさんできるといい。どの程度の基準で入れるかがわからない。
- ・近場の「あさひ」で体験できるとうれしいし、安心である。友達がいるので安心。また、本人も友達がいなければ嫌だと言う。
- ・市内に点在して、大きい施設ではなく、小さい施設の方がいい。
- ・兄弟に無理に押し付けるわけにもいかない。
- ・一人部屋、一人の時間の確保・・・単独居室のGHが希望

### ③保健・医療体制の充実について

（医療費の無料は非常に良い）

- ・歯医者は無料のため、一人で行かせることができる。本人もお金の計算はいらないので、自ら

進んで行くようになったので継続を希望する。窓口払いがないというのが大きな利点である。

#### ④障害者の社会活動の支援について

(就労の場があることは嬉しい)

- ・今働いており、働ける場所があることはとても良い。これ以上どういところで働きたいとかはない。本人が嫌がらずに行っている現状に満足している。

(就労支援から一般事業所への道のりが欲しい)

- ・一般就労の紹介がもっと欲しい。
- ・年齢的にもっと働けるので、就労支援事業所では時間（家を 830 に出て 1630 には帰宅）をもてあましておりもったいない。

(人間関係の構築に時間がかかる)

- ・仕事は覚えるまでに、一般の人より時間がかかる。また、お金も欲しいのは確かであるが、それよりも良好な人間関係、安心感が重要な点である。

(先生等に負担がかかるのが問題)

- ・スポーツをやるにしても、先生が必要であり、先生に日曜日に来てもらわないといけない。そうすると先生の休みがなくなるという問題が発生し、やめてしまった。
- ・年齢があがるにつれて、スポーツはやらなくなった。

#### ⑤障害児とその家庭への支援について

(気軽に相談できる場所が必要)

- ・昔は普通学級に行かせるかどうかの親としての判断が難しかったが、今は分からない。親心としては、当然普通学級に行かせたいし、行けるのではないかと期待してしまう。
- ・入学前に学校の教育相談室に相談したところ、最初から複式学級に入るよう言われたので、普通学級に通わせている親よりも気分的に楽だった。
- ・親としては障害を認めたくない人もいるので、学校側の対応は難しいと思う。
- ・気軽に相談できる場所が必要である。相談支援事業所には行きづらい雰囲気がある。

#### ⑥障害者にとって安全・安心のまちづくりについて

(防災についての準備が不十分)

- ・防災・防犯について、家では何も取り組んでいない。ただ、何かあった場合は家の近くの公園に集るとい話している。食料は冷蔵庫にあるもので足りると考えている。

(障害特性に配慮した避難所生活の仕組みの準備が必要)

- ・避難所での集団生活には不安がある。ダンボールなどで区切られ、親と一緒になら大丈夫かもしれないが、そうでない場合は難しいと思う。

### (3) 精神障害者（参加者2名）

#### ①障害者の権利擁護と心のバリアフリーの推進について

（活動場所の優先利用の希望）

- ・パートナーステーションの予約がとりづらいときがあるが、優先利用はできないか。つい立てだけで区切っているようなセミオープンのところ、話が外から聞こえたりすると、落ちつかない人がある。いつもは毎月第2日曜日で予約しているが、予約がとれなかったときに週をずらしたりするとわからなくなってしまう人もいる。また、公民館は利用料がかかるので団体の財政を考えると難しい。利用料が無料のパートナーステーションを優先で使用させていただければありがたい。ある程度閉ざされた空間で、落ちついていられる公共の場所が欲しい。

（差別や偏見について）

- ・退院後に自宅から出にくいとか親が出さないという話は聞くことが多い。五体満足で、元気そう、体力があるのに、日中に自宅の周りでうろうろしていると、働きもせずに何をやっているんだという近所の目は昔からある。みんな心の中で差別や偏見は感じているのではないかと思う。

（障害者への理解の促進）

- ・川口市内にアルコール依存症の自助グループがあり、中央ふれあい館を借りたことがあるが、お酒臭い人が入ってきたら困ると言われた。しかし、アルコール依存症というのはお酒をやめられない病気のため、お酒をやめてから行くというのは無理な話だし、直前までお酒を飲んでいないと動けない人もいる。

#### ②地域における障害者の自立支援について

（ワンストップの相談窓口の設置）

- ・相談支援事業については手厚く丁寧にやってもらっているが、窓口が一括で解決できればなおよい。

（相談できる場所が近隣にあるとよい）

- ・精神保健福祉士のいる障害者相談支援センターには遠くてなかなか行けない。保健センターもあまり近くなく、少し困っていた時期があった。川口保健所は川口市だけの管轄ではないため、担当者が忙しくてなかなか相談に乗ってもらえなかった。市内に相談支援事業所が満遍なく広がっていると相談しやすいと思う。保健センターのこころの健康相談も予約制のため、少し困っている。動けなくなったとき、近くの相談支援センターに精神面の相談に乗ってくれる方が在籍していないと大変だと思う。

（ピアカウンセリング・ピアサポートについて）

- ・ピアサポートをやりたい人は多いと思う。うがった見方で言えば、自分で精神障害を負いながらも、それを収入源にしようという気持ちの人もある。
- ・最近「ピアカウンセリング」とはあまり言わなくなった。

（活動の場の周知促進）

- ・地域活動支援センター事業について、今は利用しているが、以前はそのようなものがあることを知らなかった。市内にこのような活動の場があるということが精神障害者や精神疾患、自立支援医療を受けている方たちにもっと広く知れ渡ると、ひきこもりになっている人が外へ出るチャンスになると思う。



### ③保健・医療体制の充実について

(各機関の連携強化)

- ・問題を起こしたときに関わるのは警察なので、警察、医療、福祉課の連携を望む。また、役所は昼間しかやっていないので、1人の配置でもいいから24時間体制があるとよい。警察もどこへ行ったかわからなければ保健所に聞くしかない。
- ・中核市移行に伴い、戸田市、蕨市からの鬱病教室の利用者をどうするか、連携をどうするかを検討中である。

(後期高齢者医療制度に関する通知の継続希望)

- ・福祉課から後期高齢者医療制度に関する通知が来たので、制度内容がわかったし、素直に手続きがとれたので、ありがたかった。通知の充実をさらに続けていただきたいと思う。

### ④障害者の社会活動の支援について

(就労支援について)

- ・我々も重度以外で働ける者は働けるほうがよいし、意欲もある。しかし精神障害の場合は生産性を高めることは難しいし、福祉の目的は生産性を高めることではない。社会活動の主な支援策は「就労の促進」となっているが、働かなくても外出はするし、我々はバス賃を払えば乗れるわけだが、社会的な基盤がない。そうすると、生活保護に頼るしかない人がだんだん出てしまうので、企業に対して助成して障害者を雇わせるのではなく、障害者へのダイレクトペイを充実させたほうがよいのではないか。我々が生きていくには依存するしかない。どうやって依存する先をふやせるかという手助けをしていただけたらありがたい。ひと月働いて、辞めて、就労継続支援B型を利用し、その後A型を利用して、またひと月で辞めてしまうという話はよく聞く。生産的価値で判断されたくはないし、お金がない人に対してどうするかが精神障害の範疇だと思う。働きたい人は無理してでも働くが、体を壊してしまう。

(福祉タクシー、福祉ガソリン利用料金の助成について)

- ・障害者手帳3級でパニック障害、対人恐怖症がある人がいるが、3級だと福祉タクシーや福祉ガソリンは対象にならない。しかし、パニック障害や対人恐怖症だと電車やバスに乗るのが難しく、自家用車で出かけるにしてもガソリンの補助は出ないし、タクシーで出かけるにしてもタクシーの補助が出ない。手帳の等級では対象外でも、移動だけは難しいという人がいる。個別の事情になってしまい、それを全部網羅するのは難しいのかもしれないが、等級の区切りが必ず実情に合っているわけではない。

(みんななかまバスについて)

- ・みんななかまバスの終了時間が早いため夜遅くまで出かけられない。もう1便あれば便利である。また、日曜日が運休だが、仕事ができない状態で、土日でも平日も関係なく出かけたいたうときに日曜日が休みだと、日曜日にうちにいなければならない。

### ⑤障害児とその家庭への支援について

(産婦人科と精神科の連携強化)

- ・子どもが欲しいけれども精神薬を飲んでいるため妊娠や出産には抵抗があるという女性がいた場合、産婦人科で相談しても、産婦人科医は精神薬の善し悪しの区別がつかない。精神科医に相談しようにも、精神科は混んでいて5分診療で、薬を変えようと言われて変えても、結局心

配は残るという事例がある。また、妊娠した途端に断薬すると臨月を迎えるまでずっと具合が悪くなってしまふ。そうすると、症状が逆戻りしてしまう例もあるので、産婦人科と精神科がうまく連携する仕組みがあったらよいと思う。

(発症しやすい年齢の子どもに対するケアの充実)

- ・中学生、高校生の時期に精神障害を初発することが多い。中学、高校の教員に対する研修と、発症しやすい時期の子どもに対する事前教育があるとよい。
- ・十七、八歳で発症した人は働く機会がなくなってしまう。学校に通う期間が抜けているため、障害が治って社会に出たとしても、やり方がわからず戻ってきてしまう。その前に何とかできればよいと思う。

(教職員に対するケアの充実)

- ・障害児に直接関わることではないが、教職員が体を壊したら大変だし、過重労働で鬱病や機能障害にかかりやすいので、教職員の精神疾患の予防や普及啓発活動を入れてもらえればと思う。

## ⑥障害者にとって安全・安心のまちづくりについて

(災害時要援護者登録制度について)

- ・災害時要援護者登録制度について、私も登録をしているが、災害があったときに実際に誰が来てくれるのかがわかっていれば、事前にあいさつできる。ただそれだけで信頼関係を築けるし、顔を見るだけで違う。

(障害の有無にかかわらない安全・安心のまちづくりの推進)

- ・長いこと処遇困難でいる人は防犯の対象になってしまふし、町を歩いているだけで職質される精神障害の人も多い。障害の有無にかかわらず守っていただけるような体制を望む。

(おもいやり駐車場制度の継続希望)

- ・おもいやり駐車場制度は引き続き促進してほしい。

## (備考) 3 障害合同での意見交換会の実施を希望

- ・例えば身体障害者になって、お酒に走って依存症になってしまったという人がいる。それは障害を負ったことそのものもあるが、障害者手帳という形にあらわれると精神的に病んでしまふようである。障害は重複していたりするし、処遇困難者はそのような人が多い。そのため、意見交換会もできれば障害で分けずに一緒に行ったほうがよいと思う。

#### (4) 難病受給者(1人)

##### ①障害者の権利擁護と心のバリアフリーの推進について

(障害者団体の存続が心配)

- ・高齢化の進展と若い人が団体に入りたがらないことから、難病団体の後継者がいない(他の障害者団体も同様)。最近では施設系の団体を中心になってきている。団体は会員の親睦や社会参加へつなげるものだが、時代にそぐわなくなっているのか、その行く末に不安を感じている。

##### ②地域における障害者の自立支援について

(既存事業の充実)

- ・施設経営団体やそこで働く専門的資格を有する職員などと連携して、取り組んでいくことが重要である。
- ・昔は制度がなく、できた時点で感謝の気持ちがあったが、今の人達は権利として主張し、それ以上を望むので、もう少し謙虚な気持ちが必要だと思う。
- ・川口市には、十分に事業があるので、その充実が求められる。

##### ③保健・医療体制の充実について

(現状の施策を継続)

- ・予算の問題等もあり、難病への国の施策は大きく変わり、軽い人は辞退せざるを得なくなった。
- ・市内4つの病院には専門の先生がいるので、昔のようなたらいまわしはなくなったので、かなり楽である。
- ・難病については、現状の制度、そして川口市内であれば十分であり、あとは国の研究班に任せたい。

(手帳を所持していない障害者への対応方法の検討)

- ・手帳がないので、難病を証明する物をもっていないと、緊急搬送された場合に、難病が原因だと分からずに対応され、困る場合がある。

##### ④障害者の社会活動の支援について

(難病雇用のメリットを政策として確立してほしい)

- ・雇用にあたり、難病は手帳を持っていない(黄色い認定証)ので、企業側に雇用のメリットがないので、何とかしてほしい。雇用されるのをあきらめ、自身で起業する人もいる。
- ・難病を持つ学生には精神保健福祉士や社会福祉士といった資格をとるよう、勧めている。

(企業側には有資格者の雇用を求める)

- ・精神障害者の雇用を進めるには、企業側に精神障害を理解し支えることのできる精神保健福祉士をまずは雇用すべきであると訴えている。

(社会参加の推進)

- ・スポーツ、レクリエーションは、大事なコミュニケーションと社会参加への一歩なので推進してほしい。

## ⑤障害児とその家庭への支援について

(受け入れ体制の充実)

- ・心臓病の場合は、充実している市の医療機関であっても対応は難しいので、大学等につないでいる現状がある。これは家族の選択権であり、当然の権利である。
- ・万が一の場合、川口市は都心へも交通の便も良く、恵まれている。また医療センターの充実を図っていく方針を市は打ち出しているし、安心している。
- ・重度心身障害児について、これは川口だけの問題ではないかが、医療はあっても受け入れ体制、施設がない。医療体制は充実しているが、この子たちの生きていく場、生活の場について国の施策が進むことを望む。

## ⑥障害者にとって安全・安心のまちづくりについて

(障害特性に配慮した避難所のあり方)

- ・重度障害、難病の人も狭いスペースで辛い思いをするなら、壊れた家の中で良いというのは、障害者独特の考えである。

(地域ぐるみでの対応策の構築)

- ・災害では、誰が亡くなるかは分からないので、障害者も健常者も関係なく地域の中で一緒に対応できるようにすることが必要である。

「(仮称)川口市障害者総合福祉計画」策定のための意見交換会【まとめ】

区分	(1)障害者の権利擁護と心のバリアフリーの推進	(2)地域における障害者の自立支援	(3)保健・医療体制の充実
<p>身体障害者及び関係者</p>	<p>(盲導犬への理解促進)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施設、食堂、飲食店関係、スーパー等でいまだに盲導犬の入店が拒否される。障害者差別解消法が施行されて1年半になるのに、盲導犬に対する合理的配慮が不十分である。</li> </ul> <p>(障害者への理解に関する啓発活動の促進)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>障害者に対する理解について、学校の義務教育から取り組んでほしい。</li> <li>町会や自治会にて、障害者に対する理解を深めるための広報活動を行ってほしい。</li> </ul> <p>(合理的配慮の促進)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>民間企業の場合、合理的配慮は努力義務であり、なかなか進んでいない。行政から指導してもらいたいし、いつまでも努力義務として民間に任せたままでよいのか。</li> </ul>	<p>(民生委員と身体障害者相談員の連携強化)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>聴覚障害者の生活状況を把握するため、民生委員と身体障害者相談員の関係の場をもっとつくってほしい。民生委員との話し合いを通して地域の中の障害者の状況をもっと把握できるとよい。</li> <li>(日常生活用具給付等事業の耐久年数を短くしてほしい)</li> <li>日常生活用具給付等事業で耐久年数が6年のプレクストークを購入したが、6年の間に2度ほど故障し、故障代が大分かかってしまったので、耐久年数を3～4年程度にしてもらえるとありがたい。(事務局より耐用年数未満でも認めているケースがあることを報告)</li> <li>(ごみの収集など、近隣の人に頻繁には頼みにくい)</li> <li>(ふれあい収集に関連して)隣人にゴミを持って行ってもらえるような人間関係を築くことは大事だと思うが、頻繁には頼みにくい。</li> </ul>	<p>(医療機関の障害者に対する理解の促進)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>行政として、医療機関に対し、障害者の理解を深めてもらうような働きかけをして欲しい。</li> <li>(障害者に配慮した病院設備や環境の整備)</li> <li>医療センターを利用する聴覚障害者にわかりやすい病院内のパンフレットをつくって欲しい。</li> <li>個人病院では、呼び出しがわかるような設備がないので、番号を表示するような設備について市から指導して欲しい。</li> <li>聴覚障害者が突然医療センターに行くことになった場合、事前に通訳者の派遣依頼ができるとは限らず、筆談をお願いしても通訳者の同伴が必須と言われることがある。以前から市に医療センターに通訳者を配置してほしいとお願いをしているが、なかなかかなわない。</li> </ul>
<p>知的障害者及び関係者</p> <p>※明朝体は当事者へのヒアリング部分</p>	<p>(どこまで支援すべきなのか困っている)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ある程度本人自身で物事への対応ができるので、どこまで手を貸すべきなのか、成長とともに親として悩んでいる。また、どのような支援をすべきなのか、周りの人は分からないだろうし、説明するのも難しく、人には頼みづらい。</li> <li>(外見上は障害者だと分かりづらく、周囲への伝達方法が困難)</li> <li>例えば、お祭り時に興奮した際、座っていられずに立ち上がってしまい、周りの人からけなされる。外見上は障害者だと分からず、知的障害だとも伝えづらいし、偏見的な目でみられる子どもがかわいそうである。</li> </ul>	<p>(相談支援センターの活用が不十分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>利用施設に相談しており、相談支援センターに行ったことはない。</li> <li>子どもの気持ちがはっきりしないこと、親として元気であることが、市への相談を一步踏み出せない要因でもある。</li> <li>入居・利用施設の職員に相談している。</li> <li>(親亡き後の対応策が必要)</li> <li>親亡き後の住まいが心配である。世話をする人がいなければ、住宅等に一人にすることはできない。3日ぐらい宿泊練習ができる仕組みがあるといい(あるのかどうかさえ知らない)。</li> <li>親が高齢で、介護に疲れていることが心配である。</li> <li>(友人・知人がいるGHへの入居が希望)</li> <li>近場の利用施設で体験できるとうれししいし、友達がいるので安心。また、本人も友達がいなければ嫌だと言う。</li> <li>一人部屋、一人の時間の確保できる単独居室のGHが希望。</li> <li>GHは自由はないが安心して暮らせている。</li> <li>GHがどんなところか分からない。</li> <li>一人暮らしするしかないが、みんなと一緒にが良い。</li> <li>車椅子に対応可能なGHが良い。</li> </ul>	<p>(医療費の無料は非常に良い)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>歯医者は無料のため、一人で行かせることができる。本人もお金の計算はいらないので、自ら進んで行くようになったので継続を希望する。窓口払いがないというのが大きな利点である。</li> </ul>
<p>精神障害者及び関係者</p>	<p>(活動場所の優先利用の希望)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>閉ざされた空間が落ち着くという障害特性への配慮の視点から、無料のパートナーステーションについて優先利用を認めて欲しい。</li> </ul> <p>(差別や偏見について)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>退院後に自宅から出にくいとか親が出さないという話は聞くことが多い。五体満足で、元気そうで体力があるのに、日中に自宅の周りであらうろろしていると、働きもせず何をやっているんだという近所の目は昔からある。みんな心の中で差別や偏見は感じているのではないかと思う。</li> </ul> <p>(障害者への理解の促進)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>川口市内にアルコール依存症の自助グループがあり、ある施設を借りたことがあるが、お酒臭い人が入ってきたら困ると言われた。しかし、アルコール依存症はお酒をやめられない病気のため、やめてから行くというのは無理な話である。</li> </ul>	<p>(ワンストップの相談窓口の設置)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>相談支援事業については手厚く丁寧にやってもらっているが、窓口が一括で解決できればなおよい。</li> <li>(相談できる場所が近隣にあるとよい)</li> <li>精神保健福祉士のいる障害者相談支援センターには遠くてなかなか行けない。市内に相談支援事業所が満遍なく広がっていると相談しやすい。保健センターのこころの健康相談も予約制のため、困っている。</li> <li>(ピアサポートについて)</li> <li>ピアサポートをやりたい人は多いと思う。自分で精神障害を負いながらも、それを収入源にしようという気持ちの人もある。</li> <li>(活動の場の周知促進)</li> <li>地域活動支援センター事業について、市内にこのような活動の場があるということが精神障害者や自立支援医療受療者等にもっと広く知れ渡ると、外へ出るチャンスにつながる。</li> </ul>	<p>(各機関の連携強化)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>問題を起こしたときに関わるのは警察なので、警察、医療、福祉課の連携を望む。また、役所は昼間しかやっていないので、1人の配置でもいいから24時間体制があるとよい。</li> <li>(後期高齢者医療制度に関する通知の継続希望)</li> <li>福祉課から後期高齢者医療制度に関する通知が来たので、制度内容がわかったし、素直に手続きがとれたので、ありがたかった。通知の充実をさらに望む。</li> </ul>
<p>難病障害者及び関係者</p>	<p>(障害者団体の存続が心配)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高齢化の進展と若い人が団体に入りたがらないことから、難病団体の後継者がいない(他の障害者団体も同様)。最近では施設系の団体が中心になってきている。団体は会員の親睦や社会参加へつなげるものだが、時代にそぐわなくなっているのか、その行く末に不安を感じている。</li> </ul>	<p>(既存事業の充実)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施設経営団体やそこで働く専門的資格を有する職員などと連携して、取り組んでいくことが重要である。</li> <li>昔は制度がなく、できた時点で感謝の気持ちがあったが、今の人達は権利として主張し、それ以上を望むので、もう少し謙虚な気持ちが必要だと思う。</li> <li>川口市には、十分に事業があるので、その充実が求められる。</li> </ul>	<p>(現状の施策を継続)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市内4つの病院には専門の先生がいるので、昔のようなたらいまわしはなくなったので、かなり楽である。</li> <li>難病については、現状の制度、そして川口市内であれば十分である。</li> <li>(手帳を所持していない障害者への対応方法の検討)</li> <li>手帳がないので、難病を証明する物をもっていないと、緊急搬送された場合に、難病が原因だと分からずに対応され、困る場合がある。</li> </ul>

「(仮称)川口市障害者総合福祉計画」策定のための意見交換会【まとめ】

区分	(4)障害者の社会活動の支援	(5)障害児とその家庭への支援	(6)障害者にとって安全・安心のまちづくり
<p>身体障害者及び関係者</p>	<p>(バスの表示、アナウンス、停止位置等に対する要望)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>バスの行先アナウンスが聞こえないので表示を見ているが、最近では韓国語、中国語、英語、日本語と早く切り替わり、見るのが大変である。外国人のための表示が、かえって不便な面が起きている状況もある。</li> <li>バス停から離れた位置にバスが停まり、ドアにたどり着けず困ったことがある。もう少しバス停の近くに停めてもらいたい。</li> <li>Suica をタッチする機械の位置がバスによって違うので、同じ場所に設置してもらいたい。</li> </ul> <p>(福祉タクシー、福祉ガソリン利用料金の助成について)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>福祉タクシーについて視覚障害3級までの拡大を考えてほしい。視覚障害の判定基準は両眼の視力の和だが、実際の視界は両眼の視力の和にはならないため、3級と判定されても見えない場合がある。</li> <li>福祉タクシー、福祉ガソリン利用料金助成の所得制限撤廃。</li> </ul> <p>(移動支援の充実)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>障害や等級によらずに移動支援を利用できるような制度があれば、安全に早く目的地に行ける。本当であれば点字ブロックをどうこうするより、人の手による移動支援のようなものを充実してほしい。</li> </ul>	<p>—</p>	<p>(ハード面でのバリアフリー整備の要望)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>点字ブロック、音響信号、エスコートゾーンの要望書を出しているが、道路の種類(市道、県道等)等の違いにより、なかなか進まない。(障害者と健常者合同での避難訓練や防災訓練の実施を希望)</li> <li>いざなったときに一般の方は障害者にどう対応していいのかわからないと思うので、一緒に避難訓練や防災訓練を行ったほうがよい。(緊急事態発生のお知らせが障害者にもわかるような設備の設置)</li> <li>聴覚障害者には災害が発生したときに教えてくれる人・設備が必要である。例えば中央ふれあい館で聞こえない者だけで会議をしているときに緊急事態が起きても教えてもらえる方法がない。他市には、緊急事の電光掲示板やお知らせマップの設備がある。</li> </ul> <p>(現状の避難の手順や避難所の配置についての問題提起)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>頑丈な建物の中にいれば動かないほうが安全で、重度の人が一次避難所に行かなければならないこと自体がナンセンスである。</li> </ul> <p>(避難所での障害者であることのしるしについて)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>見た目でわからない障害がある。災害時等に自分から言わずとも、障害者だとわかるマークやバンドナ、ピブス等を作成・配布してほしい。</li> </ul>
<p>知的障害者及び関係者</p> <p>※明朝体は当事者へのヒアリング部分</p>	<p>(就労支援から一般就労への道のりが欲しい)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>働ける場所があることはとても良い。これ以上どういうところで働きたいとかはない。本人が嫌がらずに行っている現状に満足している。</li> <li>一般就労の紹介がもっと欲しい。</li> <li>リサイクル作業所でこのまま働きたい。</li> <li>スーパーで実習したいが、誰に相談しても動いてくれない。</li> <li>もっとお金を稼げる所で働きたい。</li> </ul> <p>(人間関係の構築に時間がかかる)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>仕事を覚えるには一般の人より時間がかかる。お金も欲しいのは確かであるが、それよりも良好な人間関係、安心感が重要な点である。</li> </ul> <p>(スポーツ等は先生に負担がかかる)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツをやるにしても、日曜日に先生に来てもらう必要があり、先生の休みがなくなるという問題が発生し、やめてしまった。</li> </ul>	<p>(気軽に相談できる場所が必要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>昔は普通学級に行かせるかどうかの親としての判断が難しかったが、今は分からない。親心としては、当然普通学級に行かせたいし、行けるのではないかと期待してしまう。</li> <li>親としては障害を認めたくない人もいるので、学校側の対応は難しいと思う。</li> <li>気軽に相談できる場所が必要である。相談支援事業所には行きづらい雰囲気がある。</li> </ul>	<p>(防災についての準備が不十分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>防災・防犯について、家では何も取り組んでいない。ただ、何かあった場合は家の近くの公園に集るという話はしている。食料は冷蔵庫にあるもので足りると考えている。</li> <li>入所・利用施設で避難訓練をしている。職員が隣の部屋にいたので安心である。</li> </ul> <p>(障害特性に配慮した避難所生活の仕組みの準備が必要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>避難所での集団生活には不安がある。ダンボールなどで区切られ、親と一緒になら大丈夫かもしれないが、そうでない場合は難しいと思う。</li> </ul>
<p>精神障害者及び関係者</p>	<p>(就労支援について)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>精神障害の場合、生産性向上は難しいし、福祉の目的は生産性向上ではない。「就労の促進」とあるが、働かなくても外出はするが、バス賃を払うなどの生活の社会的基盤がない。そうすると、生活保護に頼るしかない人が出てくる。企業助成による障害者雇用ではなく、障害者へのダイレクトペイを充実させたほうがよいのではないか。</li> </ul> <p>(福祉タクシー、福祉ガソリン利用料金の助成について)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>障害者手帳3級だと福祉タクシーや福祉ガソリンは対象にならない。しかし、パニック障害や対人恐怖症だと電車やバスに乗るのが難しいので、等級の区切りが必ず実情に合っているわけではない。</li> </ul> <p>(みんななかまバスについて)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>みんななかまバスの終了時間が早いので夜遅くまで出かけられない。もう1便あれば便利である。また、日曜日でも運行してほしい。</li> </ul>	<p>(産婦人科と精神科の連携強化)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもが欲しいが精神薬を飲んでいるため妊娠や出産には抵抗がある女性は産婦人科で相談しても、医師は精神薬の善悪の区別がつかない。精神科医に相談しようにも、精神科は混んでいて5分診療で、薬を変えても、結局心配は残る場合がある。産婦人科と精神科がうまく連携する仕組みがあったらよい。</li> </ul> <p>(発症しやすい年齢の子どもに対するケアの充実)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中学生、高校生の時期に精神障害を初発することが多い。教員への研修と、発症しやすい時期の子どもに対する事前教育があるとよい。</li> </ul> <p>(教職員に対するケアの充実)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教職員が過重労働で鬱病や機能障害にかかりやすいので、教職員の精神疾患の予防や普及啓発活動を入れて欲しい。</li> </ul>	<p>(災害時要援護者登録制度について)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>災害時要援護者登録制度について、私も登録をしているが、災害があったときに実際に誰が来てくれるのかわかっているだけで、事前にあいさつできる。ただそれだけで信頼関係を築けるし、顔を見るだけで違う。</li> </ul> <p>(障害の有無にかかわらず安全・安心のまちづくりの推進)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>長いこと処遇困難でいる人は防犯の対象になってしまうし、町を歩いているだけで職質される精神障害の人も多い。障害の有無にかかわらず守っていただけるような体制を望む。</li> </ul> <p>(おもいやり駐車場制度の継続希望)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>おもいやり駐車場制度は引き続き促進してほしい。</li> </ul>
<p>難病受給者及び関係者</p>	<p>(難病雇用のメリットを政策として創設してほしい)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>雇用にあたり、難病は手帳を持っていない(認定証)ので、企業側に雇用のメリットがないので、何とかしてほしい。</li> </ul> <p>(企業側には有資格者の雇用を求める)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>精神障害者の雇用を進めるには、企業側に精神障害を理解し支えることのできる精神保健福祉士を雇用すべきであると訴えている。</li> </ul> <p>(社会参加の推進)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツ、レクリエーションは、大事なコミュニケーションと社会参加への一歩なので推進してほしい。</li> </ul>	<p>(受け入れ体制の充実)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>心臓病の場合は、充実している市の医療機関であっても対応は難しいので、大学等につないでいる現状がある。</li> <li>万が一の場合、川口市は都心へも交通の便も良く、恵まれている。</li> <li>重度心身障害児について、これは川口だけの問題ではないが、医療はあっても受け入れ体制、施設がない。医療体制は充実しているが、この子たちの生きていく場、生活の場について国の施策が進むことを望む。</li> </ul>	<p>(障害特性に配慮した避難所のあり方)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>重度障害、難病の人も狭いスペースで辛い思いをするなら、壊れた家の中で良いというのは、障害者独特の考えである。</li> </ul> <p>(地域ぐるみでの対応策の構築)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>災害では、誰が亡くなるかは分からないので、障害者も健常者も関係なく地域の中で一緒に対応できるようにすることが必要である。</li> </ul>